

氏 名：大熊恵子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 117 号

学位授与年月日：2014 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 審 査 委 員：萱間 真美（聖路加看護大学教授、主査）

麻原きよみ（聖路加看護大学教授）

廣瀬 清人（聖路加看護大学教授）

田中 英樹（早稲田大学）

#### 博士論文審査結果

審査日：2014 年 1 月 21 日

研究科委員会提出日：2014 年 2 月 18 日

看護学研究科博士後期課程		氏名 大熊恵子
専 攻 分 野		精神看護学
論 文 題 名		精神障害者地域移行・地域定着支援事業を利用し退院に至った 長期入院統合失調症患者のエンパワメントのプロセス
審 査 委 員		

審査の合否および評価 ☒合・否

本研究は、精神科病院において退院・地域移行を促進するために有効な看護職の支援について示唆を得ることを目的として、長期入院後に精神障害者地域移行・地域定着支援事業を利用して退院できた統合失調症患者が体験したエンパワメントのプロセスを記述した。従来の研究には、専門職の視点からみた支援の原則や技術、アウトカムが報告されている

が、当事者の体験の報告はみられない。

精神科病床の平均在院日数が未だ 301 日を数え、病床削減と入院日数の短縮が課題となっているわが国では、研究の社会的価値とオリジナリティは高いと評価された。

研究方法は、1 年以上精神科病院に入院し、精神障害者地域移行・地域定着支援事業による退院支援を受けて退院した 10 名の患者を対象にインタビュー調査を行った。インタビュー逐語録をグラウンデッドセオリーアプローチの継続的比較分析法を用いて分析し、当事者が体験したエンパワメントのプロセスを表現するコアカテゴリを抽出し、ストーリーラインを記述している。

結果では、対象者の全員が無力感を感じる体験と語った意思に反する入院体験、集団志向の管理体制の中で、自分の成功体験を基盤に退院の可能性を信じ続け、あるいは信頼できる支援者と出会って、小さな成功体験を積み重ねることで、当事者・支援者の双方の認識が変化し、パワーの共有とパートナーシップを形成して退院に至るプロセスが、当事者の語りから丁寧に記載されている。

審査では、カテゴリ、コアカテゴリ、概念図、ストーリーラインが、「エンパワメントされた結果としての状態」を志向したネーミングとなっており、プロセスの方向性を示すものとなっていないこと、考察において、エンパワメントプロセスと関連づけて看護師の具体的関わりを十分に論じきれていないこと、エンパワメント研究の系譜において本研究結果がどのように位置づけられるかのつながりが弱いことが指摘された。この点については、抽象度を意識して再度分析を行い、可能な限りの修正を行い、審査員の確認を得た。

抽象と具体を循環する作業には課題があるものの、着眼点、関心、研究プロセスを自律的に行う能力は身につけており、研究領域では新規性のある、優れた研究結果であることが評価された。以上により、本論文は、本学学位規定第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。